

西区地域子育て支援拠点事業
令和6年度重点目標評価結果・令和7年度重点目標

事業実施期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日（4年度目／5か年度）
事業の実施者	特定非営利活動法人シャーロックホームズ
	西区こども家庭支援課
事業目的	市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。 【事業・施設運営の基本理念】 1 西区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることのできる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供（親子の居場所事業） 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること（子育て相談事業） 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること（情報収集・提供事業） 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること（支援者ネットワーク事業） 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること（人材育成、活動支援事業） 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること（横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業） 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること（利用者支援事業）
事業の評価 実施方法及び 評価結果の 公表方法	1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

令和6年度重点目標の評価

令和6年度 重点目標	・多様化している養育者のニーズに対応するため、引き続き、様々なテーマのイベント等を充実させるとともに、ひろば内で親の交流が深まるような仕掛けづくりを行う。 ・乳児のみならず幼児でも利用しやすい環境をつくる。 ・様々な情報ツールやアプローチ方法を用いることで、養育者が求める情報をより手軽に得られる体制をつくる。
取組内容	・幼児向けやパパ向けの時間帯の設定をすることで、普段来館していない層の利用を促す。実施に当たっては他の養育者も安心して利用できるよう、コーナー分けを行うなど工夫をした。 ・様々なテーマでのトークイベントを実施することで、利用者同士の交流を促進した。 ・ネットワークを活かし、様々な養育者のニーズに応えたイベント、「保育コンシェルジュさんにきいてみよう」「幼稚園の園長先生に聞いてみよう」「家計講座」「ひとり親イベント」「ハローワーク出張セミナー」「YOKEとの外国につながる方イベント」「中央図書館とのイベント」「ダブルケアカフェ」「ベビーマッサージ」「保育士さんと遊ぼう！」「アレルギー講座」「おもちゃ病院」「助産師相談」「栄養士相談」「みちあそび」「神大生との祭り出店」「関東学院の読み聞かせ」「アクションポート横浜のサンタプロジェクト」等を実施した。 ・令和6年度から横浜市の新拠点システムや子育て応援サイト・アプリ「パマトコ」がスタートし、スマートフォンからワンストップで拠点の情報が手軽に得られるようにホームページを改修するとともに、公式LINEの配信形式を変更することで見やすさの改善を図った。 ・イベントについては、事前周知だけでなく、実施結果や参加者の声を通信などで発信することで、養育者の参加意欲を高めた。 ・「育休などで平日も行きたいが、なかなか行きづらい」という当事者の声から「パパおいで」を7月から実施。曜日を変えて実施することで、いろいろな人が来られるように工夫した。

取組の成果	・キッズアワーを開始し、当初は参加者が少なかったものの、来場者に周知が広がるとともに参加者が増え、幼稚園児やきょうだい児などが参加するようになった。この時間を狙ってくる固定の参加者もいた。 ・「アラフォーの会」「関西大好き親子あつまれ！」は、当事者発案から企画したイベントで、当日の進行役も当事者が務めた。SUNDAYスマイルの「パパのしゃべり場コーナー」も当事者が企画して進行も努めるなど、利用者の力で交流を促進することができた。 ・区内外の団体や部署とのネットワークを活かし、様々な養育者のニーズに応えたイベントを実施し、参加者の評価も高かった。特に令和6年度に初めて実施した「ひとり親イベント」は、平日にも関わらず満員となった。周辺区からの参加もあり、日頃なかなかつながることができない同じ立場の親同士が交流できる貴重な場を提供できた。 ・令和6年4月より、公式LINEにて、その週のイベントの写真や、イベントの雰囲気や参加者の声を盛り込んだ内容の投稿をすることで、利用者の関心を幅広い情報ページへと誘導した。 ・公式サイト改修により、TOPページから他ページへの移動がスムーズになり、利用者が目的の情報へ効率よくアクセスできるようになり、ページアクセス数も増えた。利用者からもスマートフォンからアクセスしやすく、色合いがきれいで見やすくなったと、高く評価してもらっている。 ・イベントについては、事前周知に加え、実施結果や参加者の感想などをLINE配信Instagram投稿を通じて共有した。事前周知の際も、過去の参加者の声や写真を盛り込むなどの工夫をした結果、LINEやInstagramの投稿がきっかけでイベントに参加した利用者が増えた。 ・通信では利用者からスマイルポートのおすすめポイントや、イベント告知の際に過去利用者の声を載せるなどの工夫をした。イベント後のアンケートではイベントを知ったきっかけは通信からという声もきかれた。
取組の課題	・「キッズアワー」だけではなく、それ以外の時間でも大きい幼児が来た時に対応できる環境を整え、周知する必要がある。 ・「パパおいで」については、開催日が分散していたことと何をするのかよく分からなかったということから人数が集まらなかったので、やることを明確化し開催日を集約することを次年度の取組とする。 ・様々なイベントは開催できているが、プレ期から出産後への切れ目のない支援を実施する必要がある。 ・パマトコとの連携がまだ不十分なので拠点への連携を強化する。

次年度重点目標

令和7年度 重点目標	・プレ期から乳幼児期までの切れ目のない支援のさらなる仕掛けづくりを実施する。 ・0～1歳児だけではないそれ以上の幅広い年齢の親子が利用しやすい取組みを実施する。 ・区内外の子育て支援の外部機関のネットワークの垣根や世代の垣根を越えて子育て支援を実施する。
取組内容	・プレ期向けに、スマイル・ポートのプログラムが時系列に取り組めるような情報の発信をする。 ・大きい子向けには、 廃材や段ボール遊具などを使って、遊びの幅を広げられる環境を整える。 ・屋外での保育園児と地域の子どもとの交流の場をつくる。 ・小学生にも拠点や子育てについて知ってもらう機会をつくる。 ・中学生のふれあい体験について、地域の子育て支援の関係者に親子の募集や当日の参画を依頼し、地域全体で人材育成に取り組む。 ・全ケアプラザや外部機関との共催イベントの実施により参加者を広げる。